

サントリーシステムテクノロジー株式会社

急がれるDX推進の
担い手となる
デジタル人材の育成
思考力強化と
実践演習からなる
研修をスタート



製品・サービス・技術情報

・デジタル人材育成研修

「人と自然と響きあう」を企業理念に、グローバル総合酒類食品企業として多彩な事業を展開するサントリーグループは、グループ全体のデジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進すべく、その担い手となるデジタル人材の育成に向けた取り組みを強化しています。その一環として導入したのが、IBMのデジタル人材育成研修です。グループ内のIT機能会社であるサントリーシステムテクノロジー株式会社(以下、SST)の主導のもと、2020年11月から2021年1月にかけて第1期の研修を開催したところ、関係者から高い評価を獲得。たしかな手応えをつかみ、いよいよこの研修を広くサントリーグループに拡大していこうとしています。

課題

- ・ 不確実になっていく将来に対する危機意識の高まり
- ・ IT部門以外のさまざまな部門へのデジタル人材の拡大

ソリューション

- ・ 座学と実践を融合したデータ分析の研修
- ・ ロジカル・シンキング、ラテラル・シンキング、システム・シンキングを柱とした思考力強化
- ・ 実際の業務課題を研修題材としたテーマ解決力の育成

効果

- ・ 研修受講者などからの高い評価を獲得
- ・ 研修を広くサントリーグループに拡大していく機運の高まり

ビジネス課題を熟知した各部門が自らデジタルを活用し、課題解決や新価値創出を実現できる体制の構築

グローバルに展開する約300社のグループ会社に約4万人の従業員を擁し、酒類や清涼飲料、健康食品を中心に幅広い事業を手掛けるサントリーグループは着実な成長を続け、サステナブル経営のもと「Growing for Good」な企業グループを目指しています。その背景にあるのが創業以来脈々と受け継がれてきた「やってみなはれ」の精神で、さらなる変革に向けた挑戦を続けています。

そうした中で新たなテーマとして浮上してきたのが、DX推進の担い手となるデジタル人材の育成です。この取り組みを主導しているSST企画部長の佐藤 実氏は、このように話します。「ますます不確実になっていく将来にいかに対応し、激化する競争を生き抜いていくのかという危機意識はサントリーグループでも高まっています。そこで重要となるのがデジタルを活用して新しいビジネスやサービスを創出していく取り組みですが、我々のようなIT部門だけがその役割を担っているのは効果は

限定的です。ビジネス課題を熟知した各部門が自らデジタルを活用できるようにしていく必要があります」

こうしてSST代表取締役社長の村林 泰之氏の号令のもと、SSTはデジタル人材をグループ全体で育成するための研修を開始することを決定しました。これまでもIT部門以外のユーザー向けに、さまざまなITツールの使い方などの研修を行っていますが、本格的なDXを視野に入れた研修は初めての経験です。

具体的にどんなデジタル人材の育成を目指すのかというと、大きく次の2つのスキルを持った人材を想定しています。

1つは各部門において、それぞれのビジネス課題に対してデータを分析し、洞察や機会を見出すことができるスキル。もう1つは、データ分析から得られた洞察や機会とさまざまなツールやAPI、IoTなどを結び付け、課題解決を立案しアジャイルにビジネス現場に展開していくスキルです。

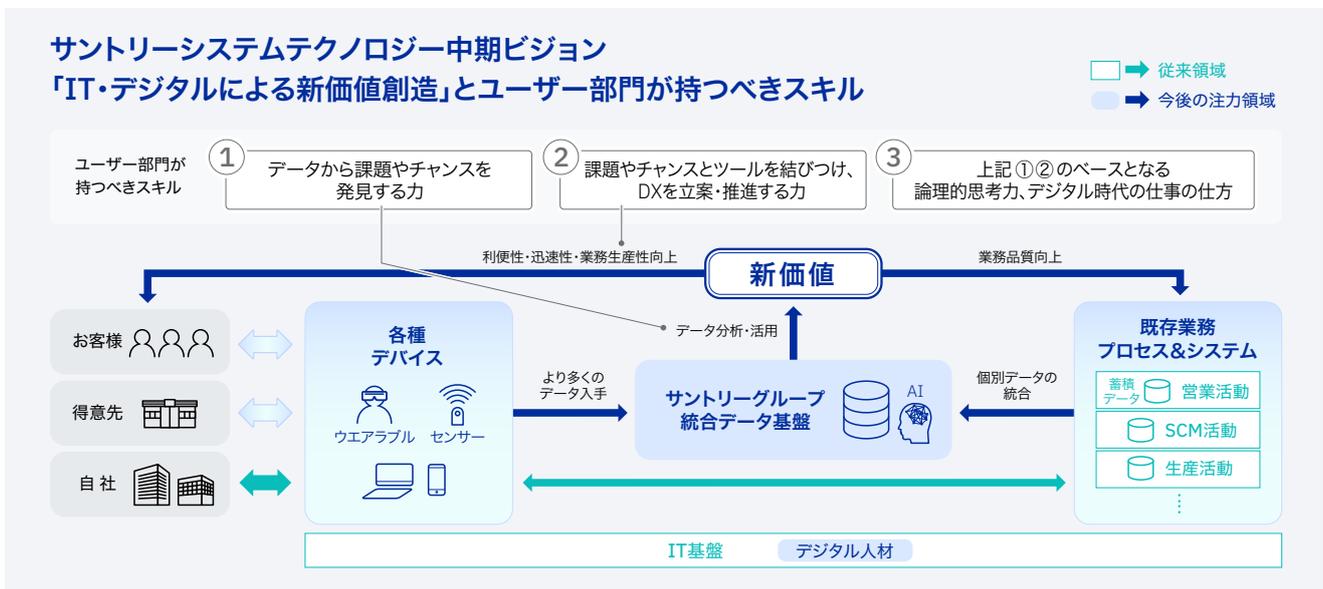
常に実践することを重視するサントリーグループの思考にフィット

具体的にどのようなカリキュラムで研修を実施すればよいのか――。SSTが模索していた中でIBMから寄せられたのが、前述の2つのスキルの前者、データ分析にフォーカスしたデジタル人材育成研修の提案です。

実際にこの研修を導入した企業にヒアリングしてみたところ、主催者・受講者双方から非常に高い評価を得ていることが

わかり、SSTはIBMのデジタル人材育成研修を基軸に据えて、研修カリキュラムを組み立てることにしました。

「プログラムの観点からは単に座学で技術や知識を教えるだけでなく、各部門の実際のビジネス課題やデータを題材としてデータ分析を行い、成果を発表するという実践演習を組み込めることに魅力を感じました。常に実践を重視するサントリー



グループの思考にフィットしており、『ぜひこのプログラムでやってみよう』と皆の意見がまとまりました」と佐藤氏は話します。

さらにBIツール活用推進を担当していたことから本研修に参画したSST ビジネスプロセス改革1部の柚原 未玲氏が、このように続けます。

「もちろん座学に関しても、IBMのデジタル人材育成研修には大きな特長がありました。ロジカル・シンキング、ラテラル・シンキング、システム・シンキングなど思考力強化に重点を置いているのがポイントで、DX推進を担っていく人材にとってまさに必須のスキルとなります。その上でテーマ解決力の育成を目的とした実践演習まで一貫した研修を実施するという点で、IBMの提案を選びました」

こうしてSSTは2020年11月から2021年1月にかけて第1期の研修を実施すべく準備を開始しました。

第1期は、かねてからデータ分析でSSTと連携していた生産、マーケティング、人事、法務などの部門から14名、そこにSSTの若手エンジニア3名を加えた計17名のメンバーを選抜。「これにはITリテラシーが異なる受講生をSSTのメンバーがアドバイザー役となって支援し、一方でSSTのメンバーはビジネス現場が抱えている生の課題を体験するといった、受講生同士の相互補完を促したいという思いがありました」と佐藤氏はこの人選の狙いを話します。

なお、実践演習で取り扱うビジネス・テーマとしては、各受講生から「生産拠点の生産性向上」や「商品のマーケティング施策の最適化」などが持ち寄せられました。

研修終了後も受講者をフォローするデータ分析コミュニティーを計画

2020年11月から始まったデジタル人材育成研修は、毎週1回のペースで計8回にわたって開催されました。1～2時間の思考力強化の講義を行い、その後2～3時間をかけて実践演習を行うのが主なスケジュールです。第6回以降の実践演習については、チーム単位での提案内容の議論および発表が行われました。

「第1期として初めての取り組みでしたが、受講生および最終報告会に参加したその上司などから非常に高い評価を得ることができました」と佐藤氏は話します。

受講生からは、例えば「非常に充実した内容で大変勉強になりました」、「約3カ月とは思えない充実した濃い内容でした。最も効果的だと感じたポイントは、理論と実践がバランスよく組み

立てられていた点と最後の成果発表が研修の学びを活かす集大成の場として位置づけられ機能していた点です。成果発表はチーム制で取り組めたこと、SSTメンバーやIBM講師などスキルと知見をもった方がサポートをしてくださり、タイムリーなフィードバックをくださったことは自分自身の能力値を超えたチャレンジや気づきにつながり、他のチームの取り組み内容がとても良い刺激かつ学びになりました」といった回答が寄せられています。

この成果を受けてSSTでは、第2期以降の研修をいよいよ広くサントリーグループに広げて開催する計画です。

「サントリーホールディングス株式会社の人材育成担当部門ともこのデジタル人材育成研修の意義と重要性を共通認識と

DX推進人材育成研修プログラムの概要

トピック	Week1	Week2	Week3	Week4	Week5	Week6	Week7	Week8
理論 思考力強化 データ分析	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	
実践 テーマ解決	テーマ取り組み方 & テーマ発表	〈個人〉 事前 相談会	〈個人〉 テーマ解決 実践演習	〈個人〉 事前 相談会	〈個人〉 提案内容 発表	〈チーム〉 提案内容 議論・発表	〈チーム〉 提案内容 議論・発表	〈チーム〉 提案内容 議論・発表
	個人					チーム		
ラップアップ	アンケート記入&振り返り							

しており、2021年度も第2期研修を開催し、今回からは全国から受講者を公募する予定です」と佐藤氏は話します。

また、これとあわせて検討が進んでいるのが受講者のアフターフォローです。

「研修を通じて短期集中的に教えるアプローチは見てきましたが、一方でDX推進の担い手となるデジタル人材の育成には息の長い取り組みが必要です。そこで研修終了後に我々IT部門と修了生、および修了生同士が継続的に交流し、実務での困り事に助言しあったり、質問に答えあったりする相互サポートのためのデータ分析コミュニティーを立ち上げたいと考えています」と柚原氏は構想を示します。

ゆくゆくは4万人のすべての社員をデジタルの素養をもった

人材へと育成し、デジタル時代においても誰もが「やってみなはれ」の精神を体現できる将来を目指し、サントリーグループ全社を挙げた取り組みが進んでいます。



佐藤氏(左)と柚原氏(右)

お客様の声

座学で技術や知識を教えるだけでなく、実際のビジネス課題やデータを題材としてデータ分析を行い、成果を発表するという実践演習を組み込めることに魅力を感じました。



サントリーシステムテクノロジー株式会社
企画部長
佐藤 実氏

研修終了後に修了生同士が継続的に交流し、実務での困り事に助言しあったり、質問に答えあったりする相互サポートのためのコミュニティーを立ち上げたいと考えています。



サントリーシステムテクノロジー株式会社
ビジネスプロセス改革1部
柚原 未玲氏



サントリーホールディングス株式会社

〒530-8203 大阪市北区堂島浜2-1-40 <https://www.suntory.co.jp/>

サントリーシステムテクノロジー株式会社

〒530-8204 大阪市北区堂島2-1-5(サントリーアネックス7F) <https://www.suntory.co.jp/sst/>

「人と自然と響きあう」を企業理念に、グローバル総合酒類食品企業として多彩な事業を展開するサントリーグループは着実に成長を続けています。創業以来120余年、お客様に最高品質の商品・サービスをお届けすることで人々の豊かな生活文化に貢献すると同時に、多様な社会や美しい地球環境との共生を常に念頭に置き、持続可能な社会の実現を目指します。

サントリーシステムテクノロジー株式会社は、サントリーグループのIT戦略の策定・推進、ITによる各事業会社の業務革新を担っています。

このカタログの情報は2021年3月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。



IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM 商標リストについては www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

©Copyright IBM Japan, Ltd. 2021 All Rights Reserved 日本アイ・ビー・エム株式会社 〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21